

ファミリー礼拝メッセージ(2021年6月27日)

「良い羊飼い」 ヨハネによる福音書 10:11 ゆりこ牧師

今日はまず、ルカによる福音書 15章に記されている迷子の羊のお話を紙芝居で見てください。この紙芝居は、アメリカで牧師をされている榊原のぶ先生が作られたものです。

「優しい羊飼いのもと、広々としたまきばに、100匹の羊が飼われていました。楽しい仲間たち、美味しい青草、みんなが平和に暮らしていました。その中にメリーちゃんという羊がいました。メリーちゃんは毎日が退屈でつまらなく、外の世界は楽しいに違いない、ここより自由に違いないと思っていました。とうとう、引き止める仲間を振り切って、まきばを逃げ出しました。ところが、楽しい自由なところと思っていた外の世界は、行けども行けども荒野で、メリーちゃんはだんだん心細くなり、喉も渴き、疲れ果てて動けなくなってしまいました。そんな時、メリーちゃんがいなくなったことを知った羊飼いは、すぐにメリーちゃんを探しに出かけました。途中でオオカミやライオンが羊飼いの前に現れました。メリーちゃんを見つけて助け出す一心で、羊飼いはオオカミやライオンと戦いました。身体中傷だらけ、ボロボロになっても、探すのを諦めません。そしてとうとう、震えているメリーちゃんを見つけたのです。羊飼いはメリーちゃんを抱き上げ、大喜びで肩に担ぎ、牧場へと戻りました。そして、みんなでメリーちゃんが無事に帰ってきたことを喜びました。」

今日のお話の箇所は、イエス様がどれほど私たちを愛してくださっているかを記した、例え話です。羊飼いはイエス様のこと、メリーちゃんは私たちのことを指しています。緑のまきば、仲間の羊たちは、イエス様を信じる群れの教会、兄弟姉妹を表しています。

これを聞いている皆さんは、すでにクリスチャンという方が多いことでしょう。でも時々、メリーちゃんのように、良い羊飼いであるイエス様のことを信じられなくなったり、日曜日に教会に行くことよりも、お友達と遊んだりすることの方が楽しいよ、と思う時はありませんか？

また、礼拝に出席しても、心ここに在らずというような時はありませんか？

イエス様はそんな弱い私たちを見捨てることをせず、「わたしのもとに帰っておいで。私のところには本当の喜びや自由があるんだよ」と、私たち一人一人に名を呼んで、探してくださっています。

また、オオカミやライオンは、サタンを指しています。彼らは私たちが信仰から離れるようにと、私たちを狙っています。「イエス様は本当にあなたのことを愛しているのか？ あなたのことを守ってくれるのか？」とささやきます。

でも、イエス様はすでにサタンに勝利しています。羊飼いが傷だらけになってメリーちゃんを探し救ったように、いいえ、それ以上に、私たちの罪のために、私たちを救うために、イエス様は鞭を打たれ、茨の冠を被せられ、両手と両足に釘を打たれ、十字架の上で、「父よ彼らを赦してください」と祈られたのです。私たちの身代わりになって死んでくださったのです。

「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のためにいのちを捨てる。」ヨハネ 10:11

イエス様は私たちのために命を捨ててくださったのです。だからこそ、クリスチャンはイエス様のまきばの羊なのです。この十字架にこそ、イエス様の愛があらわれています。

イエス様の打たれた傷により、流された血潮により、私たちは罪赦され、永遠の命が与えられているのです。なんと素晴らしい恵みでしょう。感謝しましょう。イエス様のもとに留まり続けましょう。そこにこそ本当の自由と喜びがあるのです。